


# 四国の経済動向について

## I. 最近の四国財務局管内の経済情勢

## II. 四国財務局管内における地域経済の特徴的な動きについて








平成29年8月1日  
四国財務局

# 1. 最近の四国財務局管内の経済情勢

	前回(29年4月判断)	今回(29年7月判断)	前回比較	総括判断の要点
総括判断	緩やかに回復しつつある	緩やかに回復しつつある		個人消費は、百貨店・スーパーが飲食料品で堅調なことから底堅いほか、乗用車販売やドラッグストア販売額などが前年を上回っており、全体としては持ち直している。生産活動は、はん用・生産用機械で緩やかに持ち直しつつあることなどから、全体としては緩やかに持ち直している。雇用情勢は、有効求人倍率が上昇するなど改善している。

## 〔先行き〕

先行きについては、雇用・所得環境の改善が続き、また、各種政策効果に支えられ、景気が回復していくことが期待される。ただし、海外経済の不確実性に留意するとともに、為替市場の変動など景気を下押しするリスクに注視する必要がある。

	前回(29年4月判断)	今回(29年7月判断)	前回比較
個人消費	緩やかに持ち直している	持ち直している	
生産活動	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	
雇用情勢	改善している	改善している	
設備投資	平成28年度は前年度を下回る見込み	平成29年度は前年度を上回る見通し	
企業の景況感	現状判断は「下降」超	現状判断は「下降」超	
住宅建設	前年を上回っている	前年を上回っている	
公共事業	前年度を上回っている	前年度を下回っている	

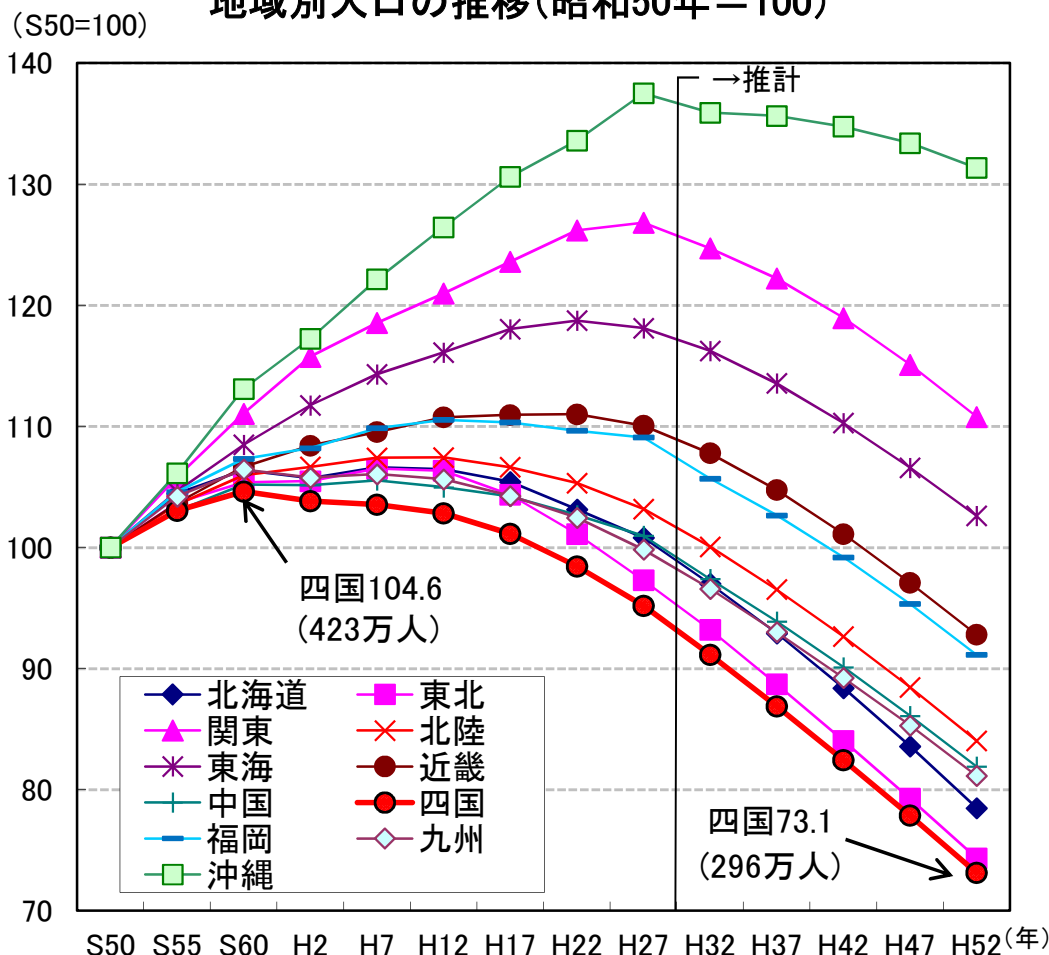
※29年7月判断は、前回4月判断以降、足下(7月末)の状況までを含めた期間で判断している。

## II. 四国財務局管内における地域経済の特徴的な動きについて

### 四国における人口高齢化と高齢者対応型産業の動き

- ・四国の人口は昭和60年(423万人)をピークに減少。平成52年には296万人と推計。
- ・年齢別人口構成比を地域別にみると、四国における65歳以上人口の構成比が最も高く、その推移をみると、全国より約10年早く高齢化が進行。

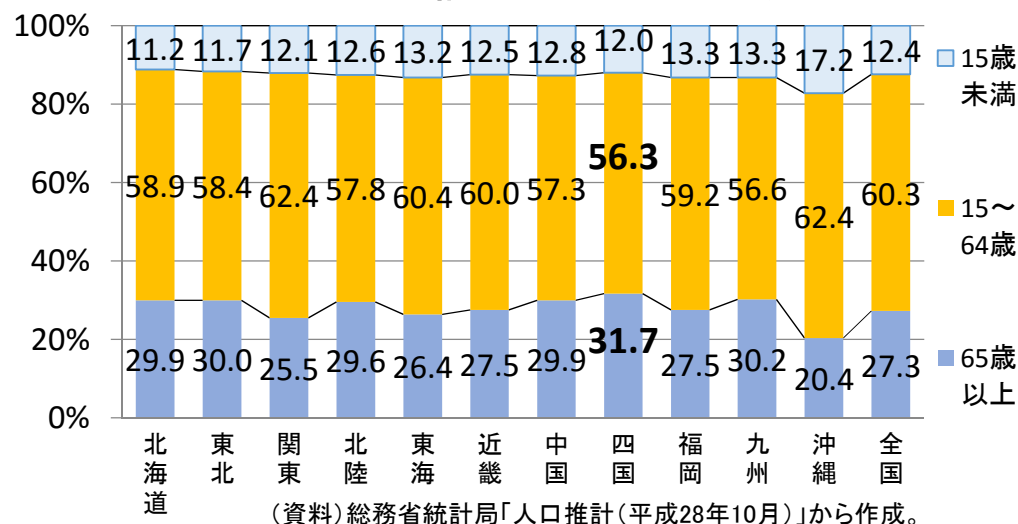
地域別人口の推移(昭和50年=100)



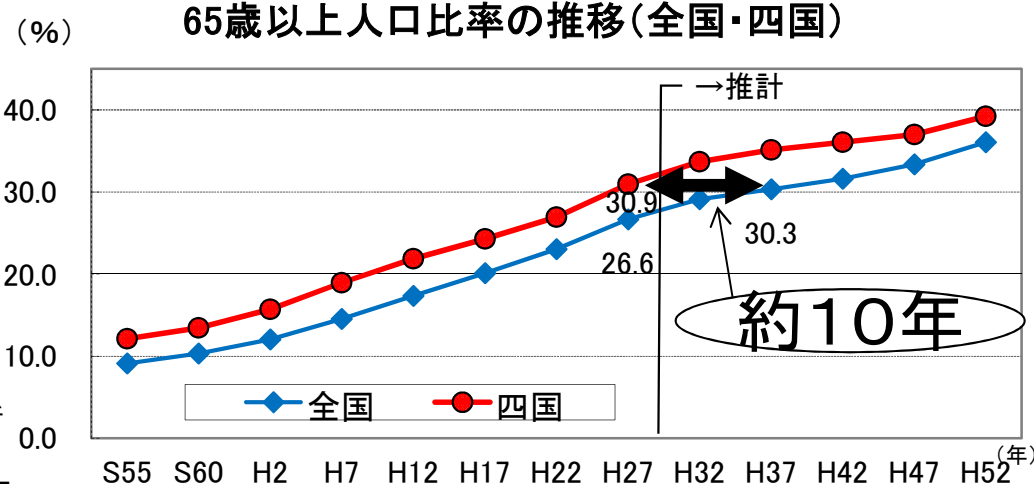
(資料)平成27年までは総務省「国勢調査」、平成32年以降は国立社会保障・人口問題研究所「日本の都道府県別将来推計人口(平成25年3月推計)」から作成。

(参考)合計特殊出生率(H27)については、香川1.63、徳島1.53、愛媛1.53、高知1.51であり、いずれの県でも全国1.45を上回っている。また、10年前(H17)との比較では、4県いずれも10年前より上昇している。(人口動態調査(H27))

年齢別人口構成比の地域別比較



65歳以上人口比率の推移(全国・四国)



(資料)総務省「国勢調査」「人口推計年報」、国立社会保障・人口問題研究所資料により作成

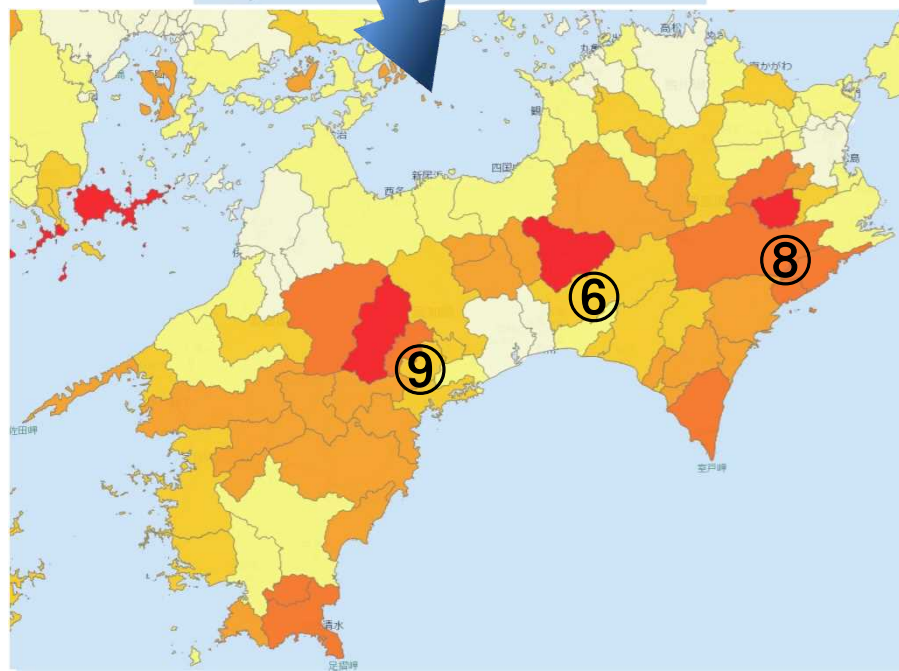
## II. 四国財務局管内における地域経済の特徴的な動きについて

### 四国における人口高齢化と高齢者対応型産業の動き

地域の高齢化を都道府県別にみると、65歳以上人口比率が30%超となっている地域は、東北、中国、四国などに多く、四国では3県で30%超。また、四国の状況を市町村別にみると、3町で65歳以上人口比率が50%超。

#### 65歳以上人口の割合

30%以下
35%以下
40%以下
45%以下
50%以下
50%超



#### 65歳以上人口の割合が5割を超える市町村

順位	市町村	実数(人)	割合(%)
1	群馬県南牧村	1,197	60.5
2	長野県天龍村	806	59.0
3	奈良県川上村	771	58.7
4	福島県金山町	1,259	57.5
5	群馬県神流町	1,096	56.1
6	高知県大豊町	2,215	55.9
7	福島県昭和村	725	54.8
8	徳島県上勝町	841	54.4
9	高知県仁淀川町	2,994	53.9
10	奈良県御杖村	948	53.9
11	奈良県東吉野村	935	53.7
12	山口県上関町	1,504	53.7
13	和歌山県古座川町	1,489	52.7
14	山口県周防大島町	8,914	51.9
15	長野県大鹿村	520	50.8
16	福島県三島町	844	50.6
17	青森県今別町	1,392	50.5
18	長野県栄村	983	50.3

65歳以上人口の割合が5割を越える市町村は全国に18か所。このうち、3か所は四国に所在。

## II. 四国財務局管内における地域経済の特徴的な動きについて

### 四国における人口高齢化と高齢者対応型産業の動き

徳島県上勝町の(株)いろどりの取組みは、中山間地で高齢化率の高い(54.4%)過疎地にありながら、葉っぱという地域資源を生かし、高齢者や女性が参加しつつ、地域住民の活気が取り戻された、過疎地域の活性化の事例のひとつ。



### (株)いろどり (徳島県上勝町)

#### 葉っぱビジネス

中山間地において、高齢者や女性でも担える仕事として、もみじや南天等の葉っぱを、日本料理の演出用「つまもの」として、生産・出荷。

⇒30年前から事業化に取り組み、年間売上高は250百万円程度で推移。

⇒国内は北海道から九州まで出荷し、EUや東南アジア、アメリカに輸出を行うなど販路を拡大。

※いろどり参加農家

29年6月末時点で165名。うち65歳以上が8割を占めている。平均年齢は70歳であり、最高年齢は92歳。



#### ITの活用

・自宅でも仕事可能なように、生産者はタブレット端末により注文確認、受発注を行う。LINEを使用した注文もスタート。(上勝町のブロードバンド普及率100%)

・ウェアラブル端末により生産者の活動状況(歩数、カロリー消費等)を把握。状況を見える化した結果、高齢者の健康に関する意識が高まっている。

・将来的に葉っぱの運搬用として無人自動運転車の導入を視野。



## II. 四国財務局管内における地域経済の特徴的な動きについて

### 四国における人口高齢化と高齢者対応型産業の動き

#### (株) いろどり (徳島県上勝町)

##### 高齢者の就業率と医療費

上勝町では、75歳以上の就業率が全国と比べても高い。  
また、75歳以上就業率が高いほど1人あたり後期高齢者医療費は低い傾向にあり、高齢者就業率の高い上勝町も後期高齢者医療費は低位。

以前は、高齢者が話し相手を求めて病院を訪れるなど、病院がサロン化していた。いろどり事業は、高齢者の「社会参加」の場を提供しているという一面もある。ITを通じて個で社会に貢献し、社会と繋がることは高齢者の「生きがい」となる。「社会参加」の機会が増加し、「生きがい」を持つことが高齢者福祉に必要とされるのではないか。

(いろどり代表取締役)

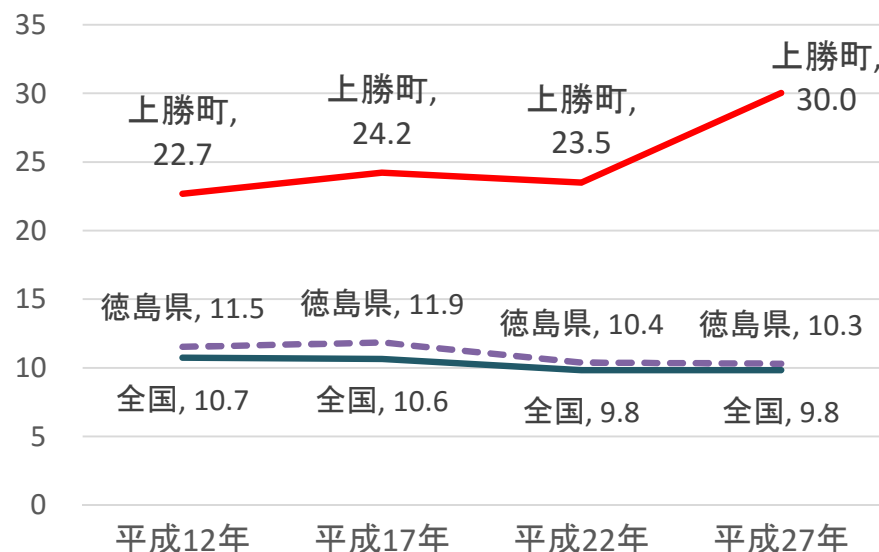
##### いろどりの今後の課題等

農家については、高齢化が進むことから後継者育成が課題。後継者対策として、いろどりでインターンシップ事業に取り組んでおり、5年間で611名を受入れ。高齢の農家が若者と接することを楽しみにしており、今後とも移住者が増加し、高齢者と若者がともにいろどり事業を進めていくことが期待される。

(参考)

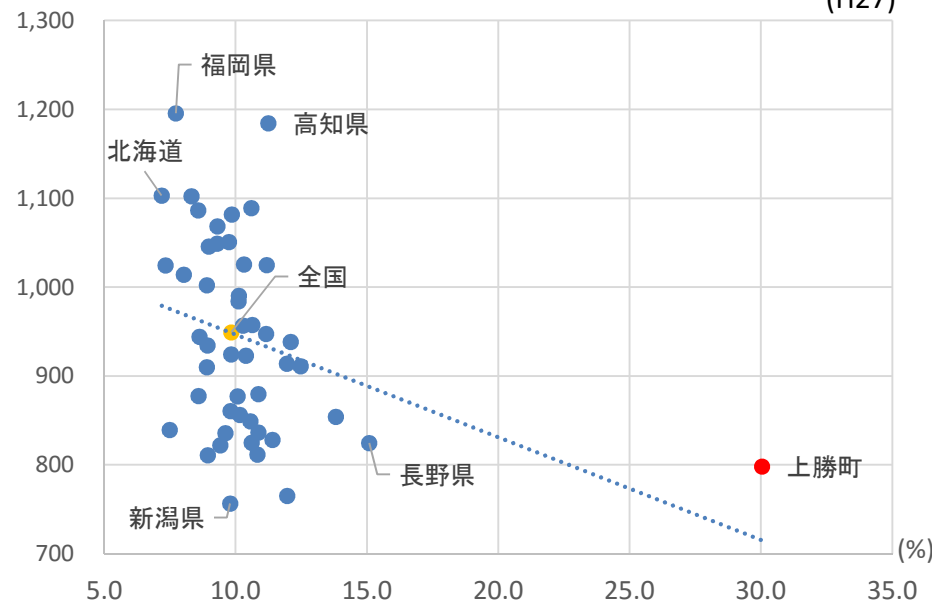
上記インターンシップ事業の取組みのほか、5年間で252名の転入者が誕生。

75歳以上就業者/75歳以上人口(%)



(資料) 国勢調査により作成。

(千円) 75歳以上就業率と1人あたり後期高齢者医療費 (H27)



(資料) 平成27年国勢調査、平成27年度後期高齢者医療事業年報により作成。 5

## II. 四国財務局管内における地域経済の特徴的な動きについて

### 地元出身経営者による地域貢献・再生可能エネルギーを活用する街づくり

愛媛県西条市朔日市(ついたち)において、約6万6千平方メートルのエリア内に住宅エリアと商業エリアを設け、エリア内で消費される電力を、再生可能エネルギーで賄うことを目標とした街づくりがスタート。

#### 街づくりの概要

建築家の隈研吾氏がマスタープランを作成。

・住宅エリアは9区画90戸分の設計案を、39歳以下の若手建築家を対象としたコンペで募集し、今後有望な建築家9組を選出。

・商業エリアは、地元食材を扱うマルシェやイベントができる多目的スペースを設け、温泉施設やホテルなどを計画。

・食品加工工場や、仕入れ・食品加工スキル・経営管理・販売促進等が学べる食の学校を計画。

・エリア内では、太陽光利用のほか、「うちぬき」や地下水の地中熱を利用するヒートポンプの導入を進める。

※「うちぬき」=自噴井

